

和泉市子どもの読書活動推進計画

本が大好き ♡ 和泉っ子

本の栄養をたくさんもらって “くすのき” のようなおおきな心を！



平成17年 3月

和泉市

図書ボランティアによんでもらったよ

- ・ 青いかいじゅうと赤いかいじゅうは、いろんなところがちがいました。だけど、心は同じだと思いました。
(「青いかいじゅうと赤いかいじゅう」より)
- ・ お日さまとお月さまは、小さなことでケンカをしてさいごにはせんそうになってしまいました。もしこんなことがあったら、ちきゅうはなくなると
思います。
(「お日さまとお月さまのけんか」より)

読書は、だれもが思い思いに楽しむものです。

たくさんの中から、読んでみたいタイトルを見つけ出す。あるいは、好きな作者を選ぶ。本を手に取り、表紙の絵を眺め、ページを開く。物語が展開していく。残りのページ数が少なくなってくる。もっと読みたい、終わらないで！

しかし、物語は終わってしまう。本を閉じるとき、満足感、共感、うれしさ、ときめき、悲しさ、怒り、さまざまにあふれ出す思いはとても大切なものです。

豊かな人間性の形成において、特に子どもの成長過程においては、読書はなによりの栄養素です。



目 次

はじめに	1
第1章 基本方針	3
1 計画の目標	
2 計画の期間	
第2章 できること・やるべきこと	4
1 子どもが読書に親しむ環境づくり	4
(1) 本との出会いの場づくり	4
(2) 子どもと本をつなぐ人づくり	8
2 連携の強化	10
3 啓発活動	11
第3章 計画における主な事業	13

【資料】

- 資料番号1 和泉市子どもの読書活動推進計画策定委員会設置要綱
- 資料番号2 和泉市子どもの読書活動推進計画策定委員会名簿
- 資料番号3 和泉市子どもの読書活動推進に関する提言
- 資料番号4 和泉市子どもの読書活動推進計画策定委員会会議開催日程
および内容
- 資料番号5 子どもの読書に関するアンケートの結果から
別 紙 平成16年度和泉市子どもの読書に関するアンケート集計結果

和泉市子どもの読書活動推進計画

本が大好き 和泉っ子

～本の栄養をたくさんもらって “くすのき” のようなおおきな心を！～

はじめに

今日、少子・高齢化の進展や核家族の増加、学校週5日制など子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。

テレビゲームや携帯電話、インターネット、メール等急速な情報化社会の進展により、洪水のごとく情報が氾濫しています。青少年の犯罪が増加し、「キレる」という一瞬の凶暴性による殺人事件が多発し、しかも低年齢化傾向にあります。また、親や保護者による児童虐待や、子どもの尊い生命が簡単に奪われる事件も多発するなど、子どもが受難の時代をむかえています。

これらの事態の背景には、子どもだけでなく、大人もまた対話によって人間関係をつくる力を失いつつあるということが考えられるのではないのでしょうか。

対話の基本は「ことば」です。私たちは心の内を伝えることばをどのように身に付けていくのでしょうか。家庭や学校における対話はいうまでもなく重要ですが、「読書」もことばを身に付ける非常に有効な手段です。

毎日新聞社と全国学校図書館協議会が共同で、毎年5月に読書状況調査を行っています。平成15年度の調査結果では、1冊も本を読まなかった人が、小学生9.3%、中学生31.9%、高校生58.7%という状況になっています。小学生は比較的本を読む割合が高いのですが、中・高校生は受験などもあり本から遠ざかっていくようです。

このような子どもの読書離れを憂慮して、衆参両院の決議により平成12年（西暦2000年）が「子ども読書年」と決定され、翌平成13年には、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、さらに平成14年には、国において「子どもの読書活動に関する基本的な計画」が策定されています。

また、大阪府においても、平成15年に「大阪府子ども読書活動推進計画 ～大阪府子ども読書ルネッサンス～」が策定されています。

読書は、考える力、豊かな感性や情操を育み、幅広い知識や表現力を身につけるうえで欠くことのできないものです。子どもに、その機会とより良い環境を提供することは、きわめて重要な課題であり、学校や家庭、地域、行政の有

効な取組みが求められています。

本市においては、子どもの読書振興を図るために、学校教育の分野では、いち早く、市内小・中学校に学校司書ボランティアを配置し、総合的な学習や読書ニーズに応えた学校図書館づくりを進めています。また、多くの学校では、朝の10分間読書活動など、子どもが身近に読書を楽しむ環境づくりにも取り組んでいます。さらに、平成15年度から12学級以上の学校に司書教諭を置くことが義務付けられたことから、本市においても学校図書館の整備充実を図っていくために、司書教諭を配置しています。

社会教育の分野においては、文化、芸術、学習活動の殿堂として和泉シティプラザが平成15年4月にオープンしました。同時に開館したシティプラザ図書館も年間60万人を超える利用者があり、貸出点数も100万点を超え、赤ちゃんから高齢者までたくさんの利用があります。また、「おはなしバスケット」や「音訳いずみ」「点訳あけぼの」をはじめとするたくさんのボランティア団体が子どもと本をつなぐ活動を担っています。

本市では、子どもの健やかな成長を願って、子どもの身近なところに本があり、いつでも利用できる環境を整えるため、子どもの読書活動推進計画の策定に向けて、平成14年7月、「和泉市子どもの読書活動推進懇話会」を設置しました。

懇話会では、子どもの読書活動に関する現状と課題、方策について話し合っていたいただき、平成16年1月にその協議の取りまとめを、「和泉市子どもの読書活動推進に関する提言」として教育長に提出いただきました。

本計画は、この「提言」の趣旨を十分に踏まえ、21世紀を担うすべての子どもが、読書に親しみ、読書のすばらしさを感じ、やさしく、たくましく生きていく力を培っていくことができるよう、市政の各分野で、また、家庭や地域において効果的な施策の推進を図ることを目的として策定するものです。

第1章 基本方針

1 計画の目標

子どもの読書環境を整備するためには、子どもと関わるすべての大人たちが連携を密にして、互いにできることを推進していくことが求められています。

読書は、本来、他から強制をされてするものではありません。ましてや子どもに本を読むことを強制すれば、逆に本を読むことが嫌いになってしまうかもしれません。

和泉市に暮らすすべての子どもに本を好きになってもらいたい。そのためには、大人が本が好きであることが大切です。

わたしたち大人は、本から生きる力をもらっています。苦しみや悲しみを乗り越える勇気や強さをもらっています。空想や夢を楽しむこともあります。経験のないことを本の中で経験することもできます。本から得たものを子どもに伝えたい、そして、心豊かな大人に成長してほしい、そう願っています。

この計画は、行政、学校、家庭、地域が連携して、子どもの読書活動を推進するための場、人、情報を提供し、子どもの健やかな成長に寄与しようとするものです。

計画の策定に当たっては、「和泉市子どもの読書活動の推進に関する提言」(平成16年1月、教育長に提出)を踏まえ、推進の方向と具体的方策を盛り込むものとします。

推進の方向として、つぎの3点を柱とします

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 子どもが読書に親しむ環境づくり2 連携の強化3 啓発活動の強化 |
|---|

2 計画の期間

この計画は、平成17年度からおおむね5年間の取組みについて示すものです。

第2章 できること・やるべきこと

1 子どもが読書に親しむ環境づくり

子どもが読書に親しむためには、新鮮で豊富な「図書」が子どもの身近にあることが何よりも重要です。そして、子どもたちの発達段階に応じた、きめ細かなサービスを図るためには、子どもと本をつなぐ「人」の存在が子どもの読書活動の推進に大きな役割を果たします。

(1) 本との出会いの場づくり

市では、生まれた赤ちゃんと保護者に絵本をとおしたスキンシップを深めるため、ブックスタート事業を推進しています。保育園・幼稚園・小学校・中学校では、本との出会いの場が整備されつつあります。今後は、生まれる前から18歳までのライフステージをつなげた本との出会いの場を作っていくことが求められています。一步ずつ階段を登り、読書習慣が形成されていくことをめざしてそれぞれの場での取組みを進めていきます。

ア 生まれる前の赤ちゃんに

赤ちゃんは、お腹の中でお母さんのやさしい声(響き)を感じています。お母さんがゆったりとした気持ちで声に出して本を読んだり、歌をうたったり、話しかけたりすると、赤ちゃんはその声を感じとっています。本を読むことは、母と子のコミュニケーションを図る大切な手段のひとつです。

出産までの不安な気持ちをやわらげられるよう、絵本の紹介、絵本が子どもの発達にとって有用なこと、いつごろから読むのがいいかといったことを柱として、絵本に親しんでもらうための出産前絵本講座を実施します。

イ 生まれた赤ちゃんに

保健センターでは平成14年度から、保健福祉センターでは平成15年度の開設時から4か月児健診時のプログラムにブックスタート事業を組み込み、図書館員とボランティアによる、絵本の読み聞かせ・展示・ブックトーク(読書への興味を喚起するため、特定のテーマに沿って、何冊かの本を選び、個々の図書の内容、著者、主題そのものなどについて紹介す

るもの)・図書館利用の説明等を実施しています。「赤ちゃんとのスキンシップを深めることができる」と、保護者にも大変好評です。1歳6か月児健診時のアンケートによれば、絵本をよんであげたことがあるかの問いに対し、「ある」と答えた市民の数は98%あり、親子のスキンシップに絵本が活用されていることが分かります。また、事業開始後、シティプラザ図書館では、赤ちゃんを連れた利用者が増加しています。

また、この事業は、若い世代の読書離れが懸念されている折から、身近に絵本とふれ合うきっかけづくりとしても意義のある事業であり、今後も4か月児健診時の「ブックスタート事業」を継続して実施していきます。

また、平成15年度から1歳6か月児健診時に「ブックスタートフォローアップ事業」を実施していますが、今後、3歳6か月児健診時においても行い、成長過程に応じた、絵本の読み聞かせ・絵本の展示・読書相談等を実施し、絵本の楽しさを感じてもらえるような機会の充実に努めていきます。

ウ 未就学の乳幼児に

保育園や幼稚園に通っていない子どもは、本についての情報が不十分になりがちで、本に親しむ機会が少なくなるおそれがあります。

そのため、地域へ出向き本の読み聞かせを行ったり、本の紹介ができるような場づくりに努めます。また、子育てサークルの活動等においても、読書活動の推進が図れるよう、本の意義・活用・選び方等についての講座の実施や、本の団体貸出の奨励や読み聞かせボランティアの派遣等の支援活動に取り組みます。

エ 保育園・幼稚園に通う子どもに

園では子どもが本とふれ合う場が設けられており、子どもと本をつなぐ人(保育士や幼稚園教諭等)もいます。また、地域の読み聞かせボランティアが協力して活動している園もあります。子どもに魅力ある本を提供できるよう、各園で蔵書の充実に努めます。

オ 小学校・中学校に通う子どもに

読書活動は、考える力・感じる力・想像する力・表す力や、知識等知的活動の増進や生きる力としての人間形成・情操を養う上で必要不可欠なものです。そのため、学校においては、国の学校図書館図書標準の達成を目標に、子どものニーズに合った蔵書の充実に努めます。

学校図書館においては、児童・生徒を引き付けるような魅力ある学校図書館づくりが必要です。児童・生徒が欲しいと思ったときにすぐに提供できるような購入システムの確立に努めます。

また、本を有効活用するため、学校間ネットワークの構築を図っていきます。今後、市立図書館と学校図書館とのネットワーク化に努めます。

カ 高校生世代に

高校生世代になれば、行動範囲が広がり、また、ものの考え方や人との関わり方なども変化してきます。それぞれの進路に向けて、勉強や塾・部活動・アルバイトなどに大半の時間を費やすことが、多くなっています。

そのような生活の中、小・中学校での学校図書館の利用や読書タイム等により養われた読書の習慣が、「個人の楽しみ」としての読書を続けるベースとなっているようです。小・中学校でのさまざまな読書活動を図る取組みによって、最近では高校の図書館を利用することが日常的となっている生徒が増え、スムーズに学校図書館の利用ができるようにもなってきています。

高等学校においては、生徒の興味を引くような学校図書館にするよう、ディスプレイや蔵書構成に工夫が必要です。市立図書館と司書教諭をはじめとする教職員が連携し、読書に関する情報を交換しあいます。

市立図書館においては、思春期の子どもの心身の悩みや疑問、将来の職業や生き方などを考える上で役に立つ本などの購入に努め、ティーンズコーナーのより一層の充実を図ります。また、市内の高等学校へは団体貸出等で支援していきます。

キ 障害がある子どもに

市立図書館においては、障害のある子どもが利用しやすいように、バリアフリー化を進めます。点字図書・大活字図書・録音図書・触る絵本などを増やすとともに、ボランティアなどの協力を得ながら、図書館利用の支援、読み聞かせ活動の充実を図ります。

学校においては、図書の時間や朝の読書活動を、障害のある子どもの観点から見直し、改善・充実を図ります。誰でも気軽に利用できる図書館をめざし、バリアフリー化とともに、利用しやすい図書館の設置場所について検討を行います。

また、市立図書館や学校において、様々な障害のある子どもにとっての読書のあり方についての研究を進め、必要な施策について検討していきま

す。

また、入院している子どもには、ボランティア等による出張おはなし会、病院内へのミニ文庫の開設や団体貸出などの支援を行い、本とのふれあいの場を提供していきます。

ク 日本の生活に慣れない外国の子どもに

和泉市には2,000人以上の外国籍の住民が暮らしています。その中には、日本の生活に十分慣れていない子どもも少なくありません。すべての子どもに本の楽しさを味わってもらえるよう、市立図書館では外国語図書を積極的に充実していきます。

また、市立図書館で現在行っている外国語絵本の読み聞かせ「おはなしたまたまばこ」等の行事を継続して行い、学校・園等にも出向いて、国際理解が深まるよう相互交流の場を提供していきます。

また、市役所の外国人登録窓口に市立図書館の案内パンフレットを置いたり、外国語絵本の蔵書案内や行事案内をしていきます。

ケ 地域で

家庭文庫や自治会館文庫などは、保護者の情報交換の場として、また子どもの居場所づくりや友達づくりの場としても大切な役割を果たすことが期待されます。

そのため、家庭文庫開設のためのパンフレットの作成や運営のノウハウ、市立図書館における団体貸出の利用方法などの情報提供を行い、開設に向けた支援を行っていきます。

コ 市立図書館で

市立図書館においては、多様なニーズに応える豊富な本の確保が不可欠です。また、利用頻度の高い本の複数購入や、総合的な学習の時間に応えるための新鮮な資料や現代的課題にリアルタイムに対応できる本も必要です。そのために、本の充実に努めます。

また、市内全域の子どもたちが身近に図書館を利用するためには、サービスポイントの増設が必要です。地域に密着した図書館機能を効率的に配置し、全市的に均一なサービスの向上を図っていきます。

また、子育てサークル等各種団体への貸出しの奨励や学校への配送サービスの確立に努めます。

(2) 子どもと本をつなぐ人づくり

本が身近にあり、いつでも自由に楽しめることは、本の魅力・楽しさを発見する上で不可欠です。そして、そこに、その本の良さを伝えてくれる人がいれば、もっと楽しくなるでしょう。保護者、祖父母、先生、保育士、友だち、近所の人たち、子ども会、PTA、老人会、ボランティアなど、子どもを温かく見守ってくれる周りの人々が本を通して子どもとふれあう中で、愛情豊かな子どもが育っていくのではないのでしょうか。そういう思いを込めて、子どもと本をつなぐ人を、あらゆる機会を活用して養成していきます。

ア 家庭で

子どもの小さい時から本と一緒に読むことで、本を通して子どもとのコミュニケーションを深めることができます。保護者に対して読書の大切さについての認識を深めてもらうよう講演会などを開催していきます。また、子育て講座などとも連携していきます。

イ 地域で

未就学児等に対して本に親しむ機会を増やすためには、子育てサークルや地域教育協議会等、市立図書館員や学校関係者以外に子どもと本をつなぐ役割を果たすための地域の人々の存在が重要です。

市立図書館では、毎年、子どもと本をよむボランティア養成講座を開催していますが、今後も引き続き開催していきます。また、修了した人に向け、スキルアップ講座を開催していきます。

地域には、読み聞かせをしたいという希望者がたくさんいますが、核になる人がまだまだ少ないので、核になるボランティアを養成し、地域で継続的な読み聞かせが展開できるように支援していきます。

ウ 保育園・幼稚園で

保育園・幼稚園それぞれの場においては、子どもと本をつなぐ役割を果たすために、保育士・教諭の役割は重要です。それぞれの場における大人が、どれほど読書の意義と役割を認識し、本についての豊富な知識を持ち、また、本の楽しさや大切さを知っているかによって、子どもたちへの伝わり方が違ってくるといっても過言ではありません。それぞれの場において、場面に応じた本の提供や伝える力量を高めるような講座や研修会を開催していきます。

エ 小学校・中学校・高等学校で

学校においては、読書活動を国語科だけでなく、教育活動全体の中で明確に位置付けることが必要です。そのために、全教職員共通理解のもと、各教科・領域及び教育活動全体を通して、読書活動をどのように位置付けるかという年間計画を立案・実施していくことも必要です。

市内の小・中学校では、配置されている司書教諭が、読書指導のコーディネーター役を務め、各校に派遣されている司書ボランティアと連携しながら、組織的に読書活動の推進を図っていきます。

また、司書教諭等のレベルアップを図る研修の機会を設けるよう努めます。

オ 図書館の利用が困難な子どもへ

市立図書館では、点字図書や録音図書、さわる絵本などを作成するボランティアの養成を行っていきます。

学校教育においては、さらなる読書活動充実のため、教職員が障害に対する正しい理解と知識を深めるための研修の機会を設けていきます。

また、日本の生活に十分慣れていない子どもに対して、母国語による絵本の読み聞かせボランティアの輪を広げていきます。

カ 市立図書館員は

子どもと本をつなぐ上で最も主要な役割を果たすのは、市立図書館員にほかなりません。市立図書館員は子どもに対する理解を深め、子どもの本についての知識を常に蓄えておくことが必要です。

そのために、市立図書館には児童専任の司書を配置し、窓口でいつでも対応できるようにします。

また、市内全域の子どもの読書に関する事業を取りまとめていく中心に市立図書館が位置し、常に地域・学校・行政・ボランティアと協力していきます。

2 連携の強化

子どもに関わるすべての組織や団体がそれぞれの経験・活動を持ち寄り、知識や情報を分け合うためには、連携が不可欠です。

市内各所で読書活動が多様な形で取り組まれています。まだ十分には体系

化されていません。これらを体系化し、効率よく本と親しむ環境を整備できるよう、連携を強めます。

ア 市立図書館が中心となって

市内全域の子どもの読書活動を推進していくため、市立図書館が中心となって、子どもに関わるすべての部署や団体等と連携を図っていきます。また、学校・園、子ども会をはじめとする地域教育関係団体、子育てサークル、ボランティア団体、学識経験者等をメンバーとする「子どもの読書活動推進協議会」(仮称)を設置し、本計画の進捗状況を見ながら、子ども自身の意見や要望もくみあげ、子どもにとって最善の読書環境が整備されるよう定期的に協議していきます。

イ 保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校では

学校・園では、子どもに対するきめ細かい読書指導のほか、家庭との意思の疎通を図ることが必要です。学校・学年だよりや図書だより、懇談会などを通して、読書の楽しさを伝え、家庭での読書を促すようにします。

各年代で育成してきた読書活動が園・校種間でとぎれないよう、お互いの連携を図るとともに、体験入学時における学校図書館訪問等を通して、読みたい本との出会いの場を設定します。また、子どもの読書活動を活発にするよう、中学校区での連絡会を定期的に開催していきます。

ウ 地域の連携を

地域ごとでどのように取り組まれているかを把握し、子どもの読書活動の推進について理解を深めてもらえるよう、子ども会をはじめとする地域教育関係団体等との連携を図り、各小学校区で読書活動を展開していきます。

そして、図書館内外のボランティアがお互いに情報交換ができる場を提供します。また、ボランティアが自発的に活動を続けていけるように市立図書館が窓口となり支援を行っていきます。

エ 他計画との整合を

市の諸計画(プラン)と整合性を図りながら計画を進めていきます。

オ 他の公共図書館等と

大阪府 Web-OPAC 横断検索システムによって、インターネットを用いて大阪

府域の公共図書館所蔵資料の検索が可能になったことから、他の公共図書館との協力により利用者に幅広い資料の提供が可能になり、今後の図書館利用の増加が見込まれます。また、府立国際児童文学館などの提供する児童文学に関する専門的な情報や、読書活動に関するさまざまな情報について、利用者の利便性の向上をめざしてよりよい利用方法を検討していきます。

また、市域を越えた貸出が可能なシステムの構築について、大阪府立中央図書館をはじめ、関係各方面に働きかけていきます。また、公共図書館が情報を交換しながら連携しあい、司書の資質向上が図れるよう、その中心となる大阪府立中央図書館に働きかけていきます。

3 啓発活動

保護者や教師をはじめ、子どもを取り巻くすべての大人に対して、あらゆる機会、あらゆる場において、子どもの読書の大切さを訴えていくことが、この施策を定着させていくカギになります。広報いずみ、パンフレットやチラシ、インターネットのホームページ、学校だよりや自治会だより、各種団体の発行している会報誌等々への掲載など、あらゆる媒体を通して啓発していきます。

ア 講座・講演会を

保護者に読書の楽しさ・すばらしさを知ってもらうため、家庭教育講座やPTA講座、生涯学習セミナー、教育講演会、保護者会等に対して、読書活動の意義等について理解を深めるよう働きかけていきます。

また、子どもたちが読書に関心を持つきっかけづくりとして、図書館や地域において行事を開催します。

イ 行政の場においては

教育委員会をはじめ、子どもに関わるすべての部署において、子どもの読書活動の推進について啓発活動を行っていきます。

ウ 広報活動を活発に

市広報やホームページを利用して、広く市民に子どもの読書活動推進に関する情報を提供していきます。

また、子どもの年代に応じたおすすめ本などのブックリストを作成し、配布していきます。

エ 子ども読書の日や子どもの読書週間の周知について

「子どもの読書活動の推進に関する法律」において、毎年4月23日が「子ども読書の日」と定められました。また、4月23日から5月12日までは「子どもの読書週間」です。

このときに、学校・園をはじめ、関連部署・団体が統一して読書活動のキャンペーンやイベントを展開し、広く市域に知らせていくことが効果的です。統一した取組みについて検討していきます。

第3章 計画における主な事業

- 1 図書館で
 - ・(仮称)和泉市子どもの読書活動推進協議会の設置
 - ・市立図書館窓口への児童図書専任の司書配置
 - ・点訳・音訳・さわる絵本作成ボランティア養成講座の開講

- 2 学校・園との連携の中で
 - ・配送サービスの確立
 - ・学校間ネットワークの構築と市立図書館のネットワーク化

- 3 地域に根付いた読書活動をめざして
 - ・中学校校区での読書活動推進連絡会(仮称)の設置
 - ・家庭文庫・自治会館文庫開設の支援
 - ・地域ごと読み聞かせボランティア養成講座の開講

- 4 子育て支援として
 - ・出産前絵本講座の実施
 - ・3歳6か月児健診時ブックスタートフォローアップの実施
 - ・子育てサークルとの連携

- 5 障害のある子どもへ
 - ・障害のある子に対する読書のあり方についての研究

- 6 子どもの読書について理解を深めるために
 - ・読書についての講座・講演会の開催
 - ・子ども読書の日を中心にキャンペーン・イベントの開催
 - ・ブックリストの作成

- 7 子どもの読書に対する意識の変化を把握するために
 - ・毎年『子どもの読書に関するアンケート』の実施

和泉市子どもの読書活動推進計画策定委員会設置要綱

(平成16年5月17日)

(設置)

第1条 子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13年法律第154号)第2条の基本理念にのっとり、子どもの読書活動推進計画(以下「計画」という。)を策定するため、和泉市子どもの読書活動推進計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を行うものとする。

- (1)計画策定のための調査に関すること。
- (2)計画の素案策定に関すること。
- (3)その他必要な事項に関すること。

2 委員会は、計画の素案策定に当たっては、和泉市子どもの読書活動推進に関する提言(平成15年12月懇話会策定)の趣旨を尊重するものとする。

(組織等)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1)小学校長会の図書担当者
- (2)中学校長会の図書担当者
- (3)小学校司書教諭
- (4)中学校司書教諭
- (5)市内の高等学校図書館関係職員
- (6)市内の養護学校図書館関係職員
- (7)企画財政部企画室企画調整課長
- (8)企画財政部財政課長
- (9)健康福祉部子育て支援担当課長
- (10)健康福祉部健康課長
- (11)学校教育部指導課長
- (12)学校教育部人権教育課長
- (13)社会教育部生涯学習推進室生涯学習推進担当課長
- (14)和泉図書館長

(オブザーバー)

第4条 委員会に次の各号に掲げるオブザーバーを置く。

- (1)大阪府立中央図書館の職員

(2)大阪府教育委員会地域振興課の職員

2 オブザーバーは、委員会に出席し、専門的な見地から助言を行う。

(委員等の委嘱又は任命)

第5条 前2条に規定する委員及びオブザーバーは、教育長が委嘱し、又は任命する。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は和泉図書館長を、副委員長は指導課長をもって充てる。

2 委員長は、委員会の会務を総括するものとし、必要に応じて委員会を招集し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

(任期)

第8条 委員会の委員及びオブザーバーの任期は、計画の素案が策定された時点で終了する。

(関係者の出席)

第9条 委員会は、必要と認めるときは、委員等以外の者の出席を求めて、意見を聴くことができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、和泉図書館において処理する。

(委任)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この訓令は、平成16年6月1日から施行し、計画の素案を策定した時点で、その効力を失う。

資料番号2

和泉市子どもの読書活動推進計画策定委員会

		所 属	役 職	氏 名
1	委員	いぶき野小学校	校長	高橋 俊宗
2	委員	南松尾中学校	校長	山本 美保子
3	委員	いぶき野小学校	司書教諭	平沼 朋子
4	委員	光明台中学校	司書教諭	田嶋 直子
5	委員	大阪府立信太高等学校	司書教諭	前川 恵
6	委員	大阪府立和泉養護学校	教諭	川並 しのぶ
7	委員	企画財政部企画室	企画調整課長	藤原 明
8	委員	企画財政部	財政課長	山本 雅之
9	委員	健康福祉部	子育て支援担当課長	橋本 隆志
10	委員	健康福祉部	健康課長	土井 悦子
11	委員	学校教育部	指導課長	森 富士雄
12	委員	学校教育部	人権教育課長	柏木 治
13	委員	社会教育部生涯学習推進室	生涯学習推進担当課長	正木 泰次
14	委員	社会教育部	和泉図書館長	壽 初代
15	オブザーバー	大阪府立中央図書館	企画協力課	脇谷 邦子
16	オブザーバー	大阪府教育委員会	地域教育振興課	藤田 豊

事務局	学校教育部	指導課指導主事	樹下 堅
事務局	社会教育部	シティプラザ図書館長	岸上 鉄雄
事務局	社会教育部	和泉図書館館長代理	山本 雅俊
事務局	社会教育部	和泉図書館企画情報係長	中塚 学
事務局	社会教育部	和泉図書館企画情報係員	中野 雅代

和泉市子どもの読書活動推進に関する提言

平成15年12月

和泉市子どもの読書活動推進懇話会

．はじめに

1999年8月、21世紀を担う子どもたちの読書離れを憂慮した超党派の議員が、『2000年を子ども読書年とする』決議案を提出、衆参両議院において採択された。そして、2001年12月、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、2002年8月、国は「子ども読書活動推進基本計画」を策定した。また、大阪府においても、2003年1月、魅力的で楽しい本との出会いをテーマとする「大阪府子ども読書活動推進計画 ～大阪府子ども読書ルネッサンス～」を策定した。

今日、青少年を取り巻く状況はたいへん憂慮すべきものがあり、彼らの衝動的、短絡的な行動が多く見られ、対話による問題解決の力が低下しているように見受けられる。このことは、とりもなおさず大人の世界を反映したものであり、その解決のためにはさまざまな手法が検討されなければならないが、そのひとつに読書の力があると考えられる。

読書は言葉を獲得する有効な手段であり、言葉を獲得することによって、思考力、表現力、理解力を養い、同時に豊かな感性や情操、思いやりの心もまた育むものである。このような環境をわたしたち大人がどのように作り出してやれるのか、国、府に続いて和泉市においても、読書活動にかかわる市内のさまざまな組織が子どもたちの読書環境の整備について研究・検討することが求められている。そこで、和泉市立図書館が中心となり「和泉市子どもの読書活動推進懇話会」が設置され、子どもの読書活動にかかわる各種団体が一堂に会し、子どもたちの現状や今後の課題等について話し合ってきた。

そのなかで、『図書館・学校・幼稚園・保育園・行政・ボランティア・地域がそれぞれにおいて読書活動を推進するために活動しているが、お互いが何をしているのか同じ市内でありながら知らないことが多い。』ということがわかった。そこで、お互いの活動内容やそのなかで見えてくるものなど、お互いの現状と課題を共通認識し、今後どのように子どもの読書活動の推進を図っていけばよいのか方向性や方策について議論した。

．和泉市の子どもたちを取り巻く読書活動の現状と課題

図書館においては、10代の図書館利用率が極めて低い。その原因として、学習塾や習い事、学校週五日制に伴う学校外での学習時間の増加が考えられる。そして、多様化するメディアの数々が子どもたちを刺激し、活字の世界（本を読む）から視覚・聴覚の世界（テレビ・ゲームなど）へと離れていっているのではないかと懸念されている。

赤ちゃんから中・高生までの読書環境はどのように変化しているのか。

子どもたちに本の楽しさを分かってもらうにはどうすればよいのか。現状と問題点を出し合ったものをまとめてみた。

1 未就学児

和泉市では平成14年度からのブックスタート事業の実施により、4ヶ月健診から本との出会いが用意されている。また、平成15年度は、1歳半健診にも出かけていき、昨年のブックスタート事業の実施後、保護者がどう変化しているか追跡調査をはじめている。また、それぞれの健診時には「子どもと本をよむ会」のボランティアが読み聞かせを行っている。

保育園や幼稚園においては先生方が子どもの育ちの中での絵本の重要性をよく認識し、園で絵本を用意し、たえず読み聞かせをする等子どもと絵本をつなぐ努力が日常的になされている。また、絵本の貸出や、保護者に対する啓発も行っている。しかし、購入予算が微増しているものの、魅力的な絵本が保育園や幼稚園等に充分にあるとは言えない。

保育園や幼稚園等に通っていない家庭における幼児の読書活動の推進は、育児や家事に追われ、活発におこなわれているとは言えない。しかし、にじのとしょかんやシティプラザ図書館が開館したことにより、小さい子ども連れの若い保護者（お父さんもお母さんも両方）がたくさん利用してきているのはうれしいことである。

就学前の子どもたちのいる家庭を支援するには、子育てサークルネットワーク推進協議会の今後の取り組みが重要視されている。子育てのネットワーク作りにおいて、地域中学校区単位で地域教育協議会はあるものの地域での読書活動推進の取り組みはあまりなされていないのは残念である。

2 学齢期の児童

和泉市の小中学校においては、平成5年度から図書費が増額されるようになっただけでなく、平成11年度から順次、全ての小・中学校に司書ボランティアが配置されている。

資格を持った司書の配置により、学校図書館は飛躍的に生まれ変わった。鍵のかかった学校図書館から常時開館が可能になり、休み時間にも本を読む子の姿が見られるようになった。司書による予約受付や本の紹介などから、貸出冊数が増加し、本に興味を持つ子ども達が大幅に増えた。また、調べ学習等で学校図書館の利用が盛んになるといった成果も見られた。しかし、今を生きる子ども達の要求は高く、話題の本や興味のある本をリクエストする子が増える中、年2回の購入回数では、それらの希望に応えることが難しい。読みたい本を読みたいときに提供できないのが現状である。また、予算が増額されたとはいえ、まだまだ学校図書館図書標準を満たしていないことも今後の課題である。

一方、司書の立場が学校支援ボランティアという形のため、資格を持つ専門職でありながら校内での位置づけが曖昧で、教育活動の展開に関われない現状がある。各種会議へも参加することがなく、めまぐるしい学校生活の中で、学校図書館での子ども達の様子を伝える機会、先生方へ読書に関する提言やアドバイスをする機会、また先生方からの要望を聞く機会が少ないことは残念である。

法律的には本年度から司書教諭が発令され、校内でより具体的に学校図書館と子どもを結び付け指導する存在として位置づけられている。しかし、司書教諭によって『本・子ども・司書・先生方』との橋渡しをなされるべきところが、ほとんどすべての学校では他の職務との兼務であり、なかなか本来の司書教諭の役目が果たされていないのが現状である。

成長期である子ども達が自ら考え、抱えている課題を解決していくために学校図書館の存在はこれからも大きくなっていくと考えられる。その場で、彼らの生きる力を支える立場の人がボランティアや兼務といった形でよいのか再考する必要があるだろう。

このように、学校教育全体において読書推進はようやくスタートしたばかりである。課題も山積しているが、『朝の10分間読書運動』が市内の半数を超える学校で実施され、他の学校でも様々な取り組みがなされていることは大変すばらしいことである。

踏み出した一步を後退させないこと、さらに一步踏み出すことが、子ども達の心の成長に、学校図書館や本が寄与すると考える。

3 中・高生

中学生になると受験勉強や塾・部活動などが子どもの時間の大きな部分を占め、ゆったりと読書を楽しむ時間が少なくなってくる。また、小学校時代に確保されていた“読書の時間”もなくなり、読書は学校で指導されるものではなく、“個人の楽しみ”の要素が大きくなっていく。したがって、この時期までに読書への興味や関心が育まれていない場合、なかなか読書に気持ちが向かわない傾向がある。読書を単なる楽しみとして捉えるならば、他にも興味をそそることや、時間を潰す遊び（ゲーム・各種映像など）が沢山あるので、とりたてて無理に本を読む必要性も感じなくなってしまう。

また、読書力（文章を読みこむ力）との関係もある。中学生が読んでみたいと関心を示す本は、大人の読み物に近くなってくるにもかかわらず、読書力がそれに伴わない場合、読むことをあきらめたり、読書を“面倒なこと”と感じ、読書から遠ざかる子どももいる。

しかし一方で、趣味や関心の幅が広がるこの時期ならではの読書の広がりの可能性も高くなっていく。社会の様々な現象に対応した読書、趣味に関連した読書、ゲームや映像や遊びから派生する読書など、子どもひとりひとりの興味や関心を上手に読書に結びつけていくことで、新たな読書への関心を呼び覚ますことが可能な年代でもある。教師や親のちょっとした一言や本の紹介がきっかけになって、子ども自らが読書の楽しさにはまることも珍しいことではない。

そのためには、子どもと読書を結ぶ人と場所が不可欠である。特に忙しい日常を送る中・高生には、学校図書館を整備することが早道である。幸い、和泉市の全中学校の学校図書館には司書ボランティアが配置され、司書教諭と協力しながら子ど

もと本をつなぐ役割をはたしている。しかし、多くの学校図書館は生徒数の割に狭苦しく教室から遠い場所にあり、本来の学校図書館の機能を果たせる構造になっていないことで生徒の有効利用を阻んでいる。さらに、長い間放置されてきた学校図書館は、小学校よりもさらに蔵書が貧しく、幅広い生徒の要求に応えるものにはなっていないうえに、必要なときに迅速に本が購入できる仕組みも整っていない。学校図書館の人の問題は、小学校と同様である。司書教諭は学校全体の読書活動に専念できるようにすることが大切である。

読書の意義についても見なおす必要がある。“個人の楽しみ”だけの読書にとどまらず、特に子どもから大人へと向かう一番多感なこの時期にこそ、生きることの意義や社会の有り様について考えてほしい、と私たち大人が願うならば、もっと中学生に積極的に読書を勧める取り組みが必要となる。さらに、今の情報化社会を生きるためには情報を読み取る力の育成も不可欠であり、読書がその力を鍛えることもしっかり認識しなければならない。

現段階では10校ある中学校でも、全校あげてなんらかの読書への取り組みを進めている学校はまだ少ない。中学生には生徒指導と受験という大きな関門があるが、読書の意義を見直し、時間を確保し、子どもひとりひとりの興味・関心に沿った読書の勧めを行っていくことが大切である。

4 ボランティア

子どもと本をつなぐ上で大きな力となっている読み聞かせボランティアをはじめとするボランティアの方々は、図書館を中心に活動を行っているが、研修体制や新たな活動の場を提供する等の力を十分に発揮できる支援体制の整備が不十分である。

5 和泉市の図書館

学校を離れた地域における読書活動の推進は、図書館が中心に担っている。シティプラザ図書館の開館により、新規利用者が大幅に伸びたことは嬉しい限りである。(別紙1参照)

和泉図書館においては、子どもの読書活動の推進のために、読み聞かせボランティアの養成講座を開講して子ども向けの行事を多く取り入れているが、図書館に来館される利用者のみへの対応となり、その他の市民に対してはサービスができていない。

にじのとしょかんは近隣の富秋中学校区との連携を密にし、いずみブックフェスティバルやミニブックフェスタ・「お話の森」、「生きる力をはぐくむ読書活動推進事業」にも関わり、常に子どもと読書をつなぐ役割を果たしている。また、近隣の幼稚園・保育園児に対し読み聞かせを行ったり、学校や子育てサークルへ出向いてのおはなし会も行なっている。また、子どもの本に関わる学習会や研修会などを数多く実施し密着したきめの細かいサービスを展開できているが、なにぶんにも規模が小さい。

シティプラザ図書館においては、子どもの年代別に利用しやすいよう資料の配置を考慮し、赤ちゃん絵本コーナー、調べ学習コーナー、ティーンズコーナー、コミック

コーナーを設置し、資料の収集を行っているが、利用者層のニーズを把握しきれず、まだまだ地域に密着した図書館とはいえない。

和泉市の市域は南北に長いので、北西部に和泉図書館・北部ににじのとしょかん・中部にシティプラザ図書館があり、図書館が充実されたとは言え、現在の3館体制では、全ての子どもたちが身近に図書館を利用できているとはいいがたい。自動車文庫の学校乗り入れ等、アクセスポイントを増やす等の工夫が必要である。

取り組みの方策

以上の現状及び問題点を踏まえて、和泉市全体の取り組みとして、3つの柱を軸とする以下の取り組みが必要であると提言する。

(1) 子どもたちが読書と親しむ環境づくり

子どもたちが読書に親しむためには、新鮮で豊富な図書が子どもの身近にあることが、何よりも重要である。そして、子どもと本をつなぐ「人」の存在が子どもの読書活動の推進に大きな役割を果たしうる。

本との出会いの場の整備

- ・ 図書館、学校、幼稚園、保育園等、子どもが本と出会えるあらゆる場において、魅力的な本と出会える環境を整備する。とりわけ、全ての子どもたちが最も身近に本と出会える学校図書館の蔵書の充実は最大の急務である。
- ・ ブックスタートのその後のフォローが必要である。
- ・ 子どもたちの発達段階に応じたきめ細かなサービスの展開を図る必要がある。
- ・ 和泉市全体で図書資料を共有化し、有効活用することは、子どもの読書活動推進において大きな効果を上げることにつながる。新たなコンピュータシステムの導入が欠かせない。
- ・ 各施設の資料を各組織・団体に運搬する物流システムの整備が必要である。

子どもと本をつなぐ人の養成

- ・ 和泉市立図書館においては子どもと子どもの本についてよく知り、子どもと本をつなぐ技術を身につけ、なおかつ地域全体の子どもの読書活動推進に目を向けることのできる専任司書の十分な配置が必要である。
- ・ 図書館の司書ボランティアは、位置づけが学校支援にとどまるため、教育活動の展開に寄与し、子どもの読書活動の推進に十分にその力を発揮しにくい。十分に力を発揮できるような学校司書の位置づけが望ましい。
- ・ 今年度から発令された司書教諭の役割の明確化と研修が必要である。専任の司書教諭の配置が望ましい。
- ・ 子どもと本をつなぐ上で大きな戦力となっているボランティアに対して、和

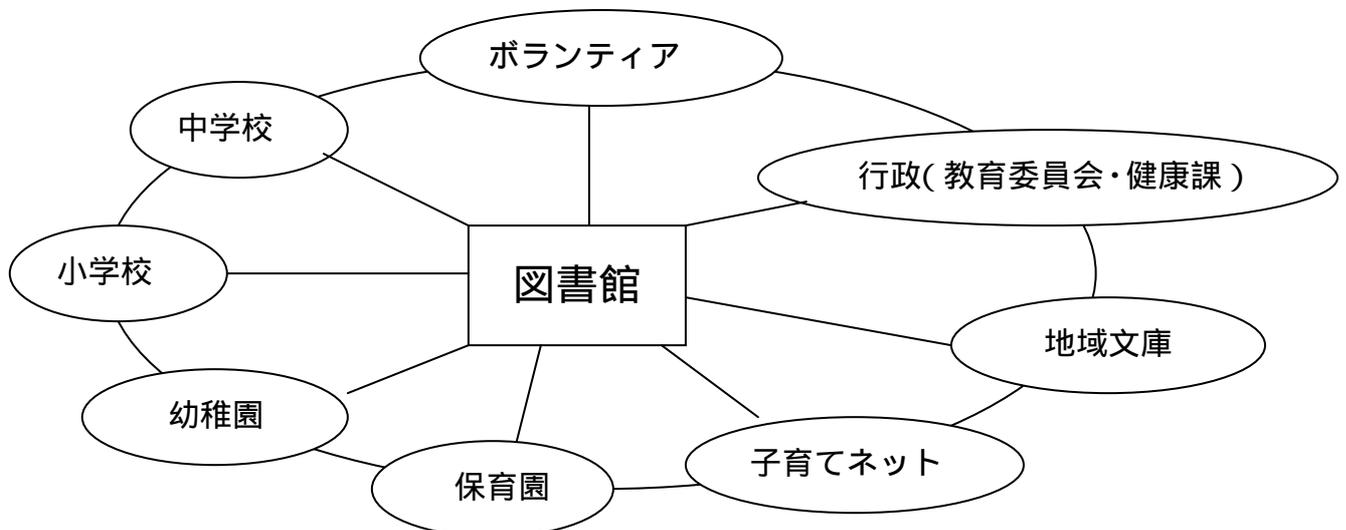
泉市の責任で研修の機会と場を提供する必要がある。

(2) 連 携

様々なところで、様々な人が子どもたちの読書活動推進のために努力していることが明らかになったが、組織を超えた協力協働には至っていない。それぞれの組織・団体がそれぞれの経験・活動を持ち寄り、分け合うことで、大きな効果を生み出す。

- ・ 子どもの読書活動の推進においては和泉市立図書館が要となるべきである。そのための図書館の人員等体制の確立が必要である。
- ・ 和泉市立図書館は大阪府立図書館や近隣図書館と連携して、よりよい図書館サービスをめざしてゆく。
- ・ 保育園・幼稚園・小学校・中学校の読書活動における縦と横のつながりを深めていく。
- ・ 地域が一体となり、読書活動を推進できる場を作り上げていく。
- ・ ボランティアが自発的に活動を続けていけるように図書館は必要な支援を行う。

イメージ図



(3) 啓 発

保護者や教師をはじめ、子どもを取り巻く全ての大人に対して、あらゆる機会、あらゆる場において、子どもの読書の大切さを訴えていくことが必要である。

- ・ 和泉市は、保護者に子どもの読書の大切さを知ってもらうために、家庭教育講座やPTA講座、生涯学習講座、保護者会等において、子どもと読書について取り上げる。

- ・ 行政の場においても、教育委員会以外の保健センター、福祉課等においても啓発活動を行う。
- ・ 市広報で全市民対象に子どもの読書活動推進のために広く広報活動を進めていく。(スペースを確保し、特集を組む等)

．最後に

以上の提言を具体的に展開していくために、市は必要な体制、必要な財政上の措置について検討する必要がある。

和泉市子どもの読書活動推進懇話会

座 委 員	長	樹下 堅 (和泉市教育委員会指導課)
	員	脇谷 邦子 (大阪府立中央図書館企画協力課)
		岸部 明美 (小学校図書館司書ボランティア)
		船田 昭子 (中学校図書館司書ボランティア)
		佐藤 満子 (図書館ボランティア・おはなしバスケット)
		宇野 隆子 (図書館ボランティア・ちくぺちゃ)
		砂田 喜三子 (和泉市子育てサークルネットワーク推進協議会)
		永田 菊子 (和泉市立鶴山台第1保育園)
		川合 道子 (和泉市立幸幼稚園)
		正木 泰次 (和泉市教育委員会生涯学習課課長)
		河合 章 (和泉市健康課課長補佐)
		佐藤 栄子 (人権文化センター・にじのとしょかん)
		岸上 鉄雄 (和泉市立シティプラザ図書館館長)
	事務局	
		中野 雅代 (和泉市立和泉図書館・児童担当)
		小林 義人 (和泉市立シティプラザ図書館・児童担当)

和泉市子どもの読書活動推進計画策定委員会 会議開催日程および内容

回	日程	時間	場所	内容
第1回	平成16年 6月18日(金)	午後3時～午後5時30分	和泉図書館 2階展示資料室	委嘱状交付、講演会「大阪府の計画の特徴と府下の動向について」ほか
第2回	平成16年 8月23日(月)	午後2時～午後4時	コミュニティセンター 4階中集会室	和泉市子どもの読書活動推進計画(素案)についての内容検討
第3回	平成16年10月 5日(火)	午後3時～午後5時	コミュニティセンター 4階中集会室	和泉市子どもの読書活動推進計画(原案)の修正
第4回	平成16年11月16日(火)	午後3時～午後5時	コミュニティセンター 4階中集会室	和泉市子どもの読書活動推進計画(原案)パブリックコメントに向けての協議
アンケート 検討委員会	平成16年12月 6日(月)	午後3時～午後5時	和泉図書館 2階展示資料室	子どもの読書に関するアンケートの内容検討
第5回	平成17年 2月25日(金)	午後3時～午後5時	コミュニティセンター 2階小運動室	和泉市子どもの読書活動推進計画策定に向けての最終協議

子どもの読書に関するアンケートの結果から

本計画を推進するにあたり、子どもの読書の実態を把握するため、平成17年1月に『子どもの読書に関するアンケート』を実施した。配布学校等は下記のとおり。

	実施校数	実施クラス数	配布数	回収数
市内小学校	20校	各学年1クラス	3,597	3,597
市内中学校	10校	各学年2クラス	1,992	1,992
市内高等学校	4校	各学年2クラス	828	828
市内養護学校	1校	小学部全員	43	24
		中学部2クラス	36	16
		高等部2クラス	44	21
計	35校		6,540	6,478

その結果（別紙参照）は主に次のとおり。

- ・ 『1週間以内に家で本を読んだか』の問いに対し、読んでいない率が小学校高学年から増加し、中学生以上は半数を超えている。
- ・ 『学校図書館で本を借りたことがあるか』の問いに対し、『ある』と答えた人は、小学校は90%以上、中学校は70%以上あり、学校図書館司書ボランティアの配置が子どもの読書活動に大きく貢献している。
- ・ 本を読むことが好きかの問いに対し、小学4年生ごろから下降傾向がみられる。

これらを総括すると、小学4～5年生頃から読書離れの傾向がすすんでいることが伺える。

平成16年度和泉市子どもの読書に関するアンケート 集計結果(全体)

(%)

学年	人数	問1:1週間以内に家で本を読みましたか									問2:1週間に読む本の冊数(平均)	問3:学校図書館で本をかりたことがあるか			問4:市立図書館で本をかりたことがあるか						問6:本をよむことが好きか					
		読んだ	-1:毎日	-2:4~5日	-3:2~3日	-4:1日	無回答	読んでいない	無回答	あり		なし	無回答	あり	和泉市在住者1:和泉図書館	和泉市在住者2:自動車文庫	和泉市在住者3:シティプラザ図書館	和泉市在住者4:にじのじょかん	無回答	なし	無回答	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	無回答
1年	609	89.5	32.1	27.9	18.2	20.2	1.7	10.1	1.7	4.3	86.7	8.0	5.3	79.5	31.2	11.6	45.7	28.1	2.3	17.2	1.1	70.0	16.7	5.1	3.4	2.8
2年	600	90.0	26.7	23.0	30.9	18.3	1.1	9.3	0.7	4.1	91.7	7.3	1.0	83.5	31.9	12.4	52.7	23.2	2.0	15.3	1.2	66.5	23.2	4.2	4.2	2.0
3年	609	89.8	18.8	21.8	40.2	18.8	0.4	10.0	0.2	3.6	91.5	6.9	1.6	85.1	29.3	15.8	57.7	21.0	0.4	14.1	0.8	55.7	31.4	6.7	5.4	0.8
4年	640	84.4	20.4	23.1	37.2	19.3	0.0	15.0	0.6	2.7	95.9	2.5	1.6	85.0	31.6	17.8	53.5	21.0	0.4	14.1	0.9	43.0	39.2	13.3	4.5	0.2
5年	598	76.4	17.3	19.5	41.8	21.2	0.2	22.7	0.8	2.2	95.3	4.2	0.5	86.6	31.3	11.2	53.5	15.8	1.2	13.0	0.3	31.4	44.1	14.9	8.5	1.0
6年	565	57.7	17.8	19.3	38.7	23.9	0.3	41.8	0.5	1.5	95.6	2.8	1.6	84.1	35.6	16.8	48.6	18.7	1.3	15.0	0.9	25.0	43.7	21.1	9.9	0.4

学年	人数	問1:1週間以内に家で本を読みましたか									問2:1日の読書時間				問3:1ヶ月に読む本の冊数	問4:学校図書館で本をかりたことがあるか			問5:市立図書館で本をかりたことがあるか						問7:本をよむことが好きか						
		読んだ	-1:毎日	-2:4~5日	-3:2~3日	-4:1日	無回答	読んでいない	無回答	15分未満	15~30分未満	30分~1時間未満	1時間以上	無回答		あり	なし	無回答	あり	和泉市在住者1:和泉図書館	和泉市在住者2:自動車文庫	和泉市在住者3:シティプラザ図書館	和泉市在住者4:にじのじょかん	無回答	なし	無回答	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	無回答
1年	752	46.9	17.8	22.1	34.0	25.5	0.6	51.5	1.6	48.1	19.9	15.0	7.8	9.0	2.5	72.7	26.1	1.2	74.1	39.3	8.3	55.5	17.1	1.3	24.9	1.1	20.6	38.4	24.1	12.1	4.8
2年	619	42.2	17.6	15.7	36.0	28.0	2.7	54.3	3.6	48.6	17.6	12.8	9.2	11.8	2.3	71.4	27.3	1.3	66.2	42.0	11.5	41.5	19.3	2.2	32.8	1.0	21.2	41.0	23.4	13.6	0.8
3年	637	42.9	22.7	12.5	35.9	28.2	0.7	56.7	0.5	51.2	16.6	13.3	10.4	8.5	2.3	73.3	25.6	1.1	64.5	43.8	7.8	40.4	16.1	4.9	34.5	1.1	21.4	42.4	21.8	12.6	1.9

学年	人数	住所								問1:1週間以内に家で本を読みましたか									問2:1日の読書時間				問3:1ヶ月に読む本の冊数	問4:学校図書館で本をかりたことがあるか			問5:市立図書館で本をかりたことがあるか						問7:本をよむことが好きか					
		和泉市	堺市	高石市	泉大津市	忠岡町	その他	住所無回答	読んだ	-1:毎日	-2:4~5日	-3:2~3日	-4:1日	無回答	読んでいない	無回答	15分未満	15~30分未満	30分~1時間未満	1時間以上	無回答	あり		なし	無回答	あり	和泉市在住者1:和泉図書館	和泉市在住者2:自動車文庫	和泉市在住者3:シティプラザ図書館	和泉市在住者4:にじのじょかん	無回答	なし	無回答	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	無回答
1年	284	32.7	36.6	6.0	10.6	0.7	12.7	0.7	30.6	16.1	24.1	27.6	31.0	1.1	67.6	1.4	38.4	11.6	10.6	14.8	24.6	2.1	16.9	81.3	1.8	37.0	27.6	6.7	21.0	7.6	54.3	57.4	5.6	18.3	34.5	23.9	18.0	4.6
2年	248	34.7	30.2	8.9	14.1	1.6	10.5	0.0	31.9	21.5	13.9	30.4	30.4	3.8	65.7	2.4	35.5	8.5	14.1	12.9	29.0	2.0	18.5	77.8	3.6	44.4	30.0	2.7	12.7	1.8	30.9	48.0	7.7	19.8	38.7	20.6	16.5	4.4
3年	317	28.7	31.9	9.5	10.4	0.6	18.3	0.6	30.9	23.5	12.2	34.7	27.6	2.0	67.2	1.9	36.0	6.6	12.9	15.1	29.3	1.7	21.8	75.7	2.5	39.1	40.3	3.2	7.3	0.0	26.6	51.4	9.5	25.9	35.0	22.7	13.2	3.2

本をよむことが好きですか

	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	無回答
小1	70.0	16.7	5.1	3.4	2.8
小2	66.5	23.2	4.2	4.2	2.0
小3	55.7	31.4	6.7	5.4	0.8
小4	43.0	39.2	13.3	4.5	0.2
小5	31.4	44.1	14.9	8.5	1.0
小6	25.0	43.7	21.1	9.9	0.4
中1	20.6	38.4	24.1	12.1	4.8
中2	21.2	41.0	23.4	13.6	0.8
中3	21.4	42.4	21.8	12.6	1.9
高1	18.3	34.5	23.9	18.0	4.6
高2	19.9	39.0	20.3	16.3	4.5
高3	25.9	35.0	22.7	13.2	3.2

